

「交通事故対策・評価マニュアル」及び「交通事故対策事例集」の作成



道路研究部 道路空間高度化研究室 主任研究官 村田 重雄

1. はじめに

近年の交通事故死者数は減少傾向にあるものの、事故発生件数は依然として増加傾向にある。このような背景から、今後の事故抑止対策のより効果的な立案、効率的推進、適切な対策効果の評価が求められている。

これらの要求に資するため、当研究室では、対策検討の一連の手順を体系化した「交通事故対策・評価マニュアル」について、案の作成等を行い、国土交通省道路局及び警察庁交通局の取りまとめを支援した。また、事故要因の分析から対策立案までの具体的な検討の際に参考となる「交通事故対策事例集」を作成した。

2. 交通事故対策・評価マニュアル

事故抑止対策の立案から評価までの手順や留意点を体系的に整理し、まとめたものである。マニュアルに示した対策の立案から評価までの手順については、図-1のとおりであり、各段階における検討内容について明確化した。

3. 交通事故対策事例集

1996～2002年度に実施した事故多発地点緊急対策事業の事故抑止対策検討資料などをもとに、事故対策に関する知見を収集、整理したものである。事例集は、事故要因の分析を支援する「事故要因一覧表」、対策の立案を支援する「対策一覧表」及び具体的な事例を紹介する「対策の事例」により構成されている。

「事故要因一覧表」は、単路、交差点の区分などで分類した道路特性別に、各事故類型から想定される事故の発生過程や事故を誘発すると考えられる道路交通環境上の要因などについて整理したものである。また「対策一覧表」は、道路交通環境に起因す

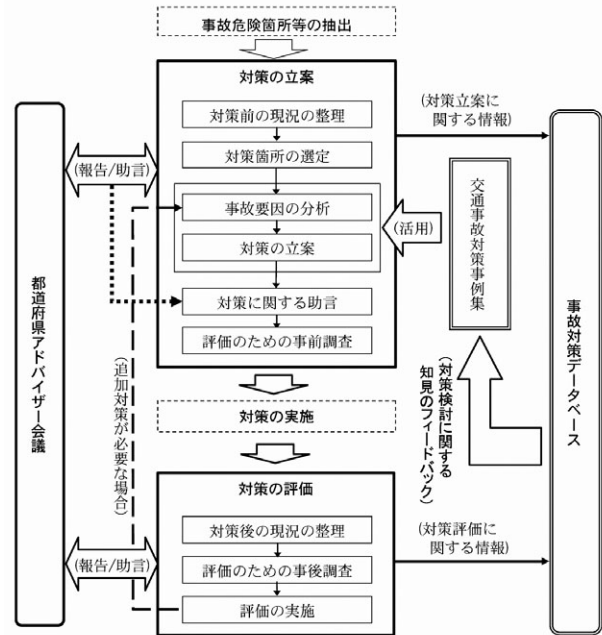


図-1 交通事故対策の立案・評価の手順

ると考えられる事故要因に対応した対策方針、具体的な対策工種及び対策を実施する場合の留意点をまとめたものである。

事例集を活用することにより、道路特性ごとの主要な事故類型に対し、事故要因の分析から主な対策の検討までを効率的に行うことができるようになっている。

4. おわりに

2004年9月21日付けで国土交通省道路局及び警察庁交通局より、本マニュアルと事例集は各道路管理者に配布され、2003年度に指定された事故危険箇所の対策検討に活用する旨の事務連絡が発出された。今後は、事故危険箇所における事故抑止対策検討で得られた知見を「事故対策データベース」を利用して収集し、これを分析して、マニュアルや事例集の充実を図りたいと考えている。